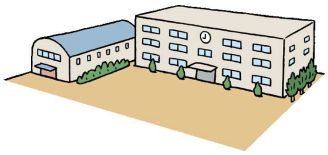

東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和４年９月３０日　第１４号

全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

４月１９日に、全国の全ての公立中学校の３年生を対象に国語・数学・理科及び質問紙で「全国学力・学習状況調査」が実施されました。結果については学力向上委員会を中心に分析し、今後の取組についても検討しました。以下に本校の結果や今後の取組等の概要を掲載いたします。なお、調査を実施した３年生については個々の調査結果を配布しますので、今後の学習の参考にしてください。

＜調査目的の概要＞

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

＜出題内容の例＞（原則として、前学年までの学習内容で構成されています）

◇身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
◇実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
◇知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
◇様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

「百聞は一見にしかず」ですので、「全国学力・学習状況調査」ではどのような出題がなされるのか、また、どのようなことを質問されているのか、興味のある方は右のＱＲコードから入って、リンク先の資料をご覧ください。
中学２年生までの学習内容を受けて、国がどのような問題を出題しているのか、イメージしやすくなると思います。

＜分析方法及び主な学力向上対策見直しの流れ＞

国からの結果の提供を受け、大まかに以下の対応を行います。

１　目安として県平均より±５点以上の差がある問題を抽出する。
２　国や県との相対的な比較とは別に、目安として正答率が４０％以下の問題を抽出する。
３　学習指導要領の領域（教科ごとに異なる）や、評価の観点（全教科「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）、問題形式（選択式、短答式、記述式）などの視点で本校生徒の学力の実態や傾向を把握する。
４　生徒質問紙についても、上記１、２と同様に相対的、絶対値的な視点から本校生徒の特徴や傾向を把握する。
５　学力向上担当を中心に学校全体の学力向上対策の見直しや再確認を行うとともに、教科部会ごとに、今後の具体的な重点策を共通理解する。
６　１月に行う市学力テストの結果も踏まえ、次年度に向けた学力向上対策を立案する。

＜本校の結果の概要＞

新聞等で既に報道されたとおり、今年度の群馬県の結果は次ページの左表のとおりでした。教科に関する調査は、知識を問う問題と活用する力を問う問題を一体的に出題する形となっていますが、群馬県の中学校の平均正答率は、国語、数学、理科ともに全国を上回っています。
また、群馬県の平均と比較して、本校は次ページの右表のようになっており３教科とも県の平均と同程度となっています。

全国と本県の平均正答率（%）			
	国　語	数　学	理　科
全　国	69.0	51.4	49.3
群馬県	70	52	52

本校と県の比較			
	国　語	数　学	理　科
平均正答率	同程度	同程度	同程度
県平均を上回る領域数	３ （６分類中）	１ （４領域中）	１ （４領域中）

＜国語の全体的な傾向や特徴的な内容等＞

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県の平均と同程度です。
□「情報の扱い方に関する事項」は県の平均を上回っています。
□「我が国の伝統文化に関する事項」は県の平均をやや上回っています。
□「話すこと・聞くこと」の領域は県の平均をわずかに下回っています。
　○「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」ことについては、県の平均を大きく上回っています。
　▼出題の趣旨として「論理の展開などに注意して聞く」「文脈に即して漢字を正しく書く」ものの一部は県平均を大きく下回っています。
□「書くこと」に関しては、県の平均を上回っています。
□「読むこと」に関しては県の平均をやや下回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題としては、「行書の特徴を踏まえた書き方」「資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに加筆する」「話す意図を書く」といった内容です。

＜数学の全体的な傾向や特徴的な内容等＞

□「数と式」の領域は県平均を下回っています。
　▼「素因数分解」「差が４である２つの偶数の和が、４の倍数になることの説明」の出題は、県平均を大きく下回っています。
□「図形」の領域は県平均と同程度です。
□「関数」の領域は県平均を大きく下回っています。
　▼「変化の割合が２である一次関数の関係を表した表を選ぶ」「目標の３００ｋｇを達成するまでの日数を求める方法を説明する」出題は県の平均を大きく下回っています。
□「データの活用」は県の平均を大きく上回っています。
　○「容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ」「コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び，選んだ理由を説明する」出題は、県の平均を大きく上回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題としては、「∠ＡＢＥと∠ＣＢＦの和が３０°になる理由を示し、∠ＥＢＦの大きさがいつでも６０°になることの説明を完成する」「ある偶数との和が４の倍数になる数について、予想した事柄を表現する」「変化の割合が２である一次関数の関係を表した表を選ぶ」といった内容です。

＜理科の全体的な傾向や特徴的な内容等＞

□「エネルギーを柱とする領域」は県平均を上回っています。
　○「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し，その力について説明する」「考察の妥当性を高めるために，測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する」出題は県の平均を大きく上回っています。
　▼「タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために，変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する」「水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する」出題は、県の平均を大きく下回っています。
□「粒子を柱とする領域」は県平均をやや上回っています。
　○「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する」出題は、県の

平均を大きく上回っています。

▼「水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について，適切なものを選択する」「吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し，必要な実験を指摘する」出題は県の平均を大きく下回っています。

□「生命を柱とする領域」は県平均をやや下回っています。

▼「ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け，その理由を説明する」「アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する」出題は県の平均を大きく下回っています。

□「地球を柱とする領域」は県の平均を下回っています。

▼「上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する」「玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し，その理由を選択する」「生物Ｘが昆虫類かどうかアリと比較しながら，観点と基準を明確にして判断する」出題は、県の平均を大きく下回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題としては、「おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する」「水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する」「上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する」といった問題です。

＜生徒質問紙の結果のうち、特徴的な内容＞

【県の平均と比較してプラス面の差が大きかったもの】

○いじめは、どんな理由があってもいけないと思っている。
○困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
○学校に行くのは楽しい。
○地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。
○１，２年生のときに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使った回数が多い。
○学校で、授業中に自分で調べる場面で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使う回数が多い。
○１，２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
○１，２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいた。
○１，２年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。
○学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。

【県の平均と比較して得られた本校の相対的な特徴】

○携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことをあまり守れていない。
○１日当たり（平日）のテレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている時間が長い。
○１日当たり（平日）携帯電話やスマートフォンでＳＮＳや動画視聴などをしている時間が長い。
○家で自分で計画を立てて勉強をしていない。(学校の授業の予習や復習を含む)。
○１日当たり（平日、土日とも）塾なども含め２時間以上している学習している生徒の割合が低い。
○読書が好きな生徒の割合が低い。
○自然の中で遊ぶことや自然観察をすることが少ない。

＜今後の主な学校の取組＞

今回の結果には多岐にわたる要素が含まれているため、全ての結果や分析をお伝えすることはできません。しかし、上記の学力や学習状況に関する本校の傾向を踏まえ、実態に応じた対応策を実践し

ていきたいと思います。以下に示したものの多くは、これまでも取り組んできた内容ですが、実効性を意識しながら学校全体として継続して取り組んでいきたいと思います。

【校内研修の推進】

この後発行する学校通信の「確かな学力」の欄にも記載する予定ですが、校内研修を効果的に行い、不断の授業改善に取り組んでいくことで学力向上につなげていきたいと思います。具体的には、「一人１研究授業」と言われる取組も行っていますが、よりよい授業の在り方について検討する機会を今後も設けていきたいと思います。また、教育委員会による学校訪問指導といった機会もありますが、様々な機会を活用して、一人一人の教員の更なる指導力向上を図っていきたいと思いま　す。

【補充学習・家庭学習の充実】

これまでも取り組んできましたが、定期テスト前や長期休業期間などを活用して、授業時間以外でも学校で学習する時間を設定する取組を継続します。質問等のある生徒は、遠慮せず教科担当まで声を掛けてください。また、「家庭学習の手引き」の有効活用などについても指導を続けたいと思います。

【指導体制の工夫】

必要に応じて各教科で既に実践していますが、単元や生徒の実態等に応じて学習集団を編制する工夫を継続します。また、学力向上のために配置されている支援員なども、より個別の実態に応じた指導につながるよう、活用方法を改善していきたいと思います。

【タブレット等の有効活用】

タブレット導入当初から使用が目的化しないよう留意していますが、これからの時代を生きていく中学生にとってＩＣＴの活用が必須であることは間違いありません。大切なことは、使用するタイミングや方法などであり、ＩＣＴをツールとして自ら活用できるようにしていくことが必要です。現状として既に様々なデバイスを持っている生徒もたくさんいますが、個別の興味・関心や能力、適性、進路希望等に合わせて、一人一人に最適化された学びにつながるような指導を心掛けていきたいと思います。

【基本的な生活習慣の定着に向けた取組の充実】

ＳＮＳや動画視聴などスマートフォン等の使用の在り方については、検討の余地があると考えておりますので、学校保健委員会などの組織も活用しながら、生徒への啓発活動も継続していきます。また、学習時間や学習方法等の在り方についても、進路指導と関連付けながら自律的な生活が送れるよう働き掛けを続けていきたいと思います。

「学力」は飽くまで生徒の一側面であり、ペーパーテストで点数が取れることとは別の「学力観」が語られることも少なくありません。しかし、基礎的・基本的な知識や技能、考える力や表現する力などは、わたしたちが社会生活を送っていく上で不可欠な力です。また、進路の実現に向けても必要となる力です。そのようなことからも学力向上を図ることが生きる力の育成につながり、キャリア教育の充実にも資すると考えております。

学力向上に向け、自主学習の日々の提出や、配布してある「家庭学習の手引き」などを更に有効活用していただければと思いますが、国が学力について示している内容の中には、「学びに向かう力」「人間性の涵養」といった表現も含まれていますので、各ご家庭におかれましても、様々な視点を踏まえながらお子様の成長に向けた支援を引き続きお願いいたします。